

コメント	回答
2. 知りたい内容がカバーされていましたか？	
材料データ改ざん防止対策に対するJAQGの検討状況を示して欲しかった。	材料データ改ざん防止等に関しては、2019年度詳細検討を進めて参ります。JAQGとして一定の成果を得た時点でメンバーの皆様にご紹介いたします。
9100と9001の複合審査ができなくなると聞いているが、今後どのような対応を取れば良いのか等の説明が欲しかった。	認証範囲が異なる場合のJIS Q 9001とJIS Q 9100の同時審査、或は複合審査を許容するかどうかについては、IAQGで審議していますが、現時点で決議した事項はありません。決定次第、WEB等を通じてご報告いたします。
新しい内容に乏しかったように感じる。新規部分やアピールポイントを示した方が良いのではないか。	コメントありがとうございます。次年度は新しい情報、アピールポイントに焦点を当てて報告するように致します。
9100と9001の認証書表記に対しての説明がほしかった。	JIS Q 9001とJIS Q 9100の認証書表記については、IAQGにて審議しております。決定次第、WEB等を通じてご報告いたします。
特殊工程/Nadcapの活動報告、JRMCA活動内容紹介については、もう少し時間があっても良かったかと思えます。規格改訂が一段落したこの時期、時間配分は従来のやり方に囚われずもう少し柔軟でも良いように感じます。	コメントありがとうございます。次年度のプログラム作成の参考とさせていただきます。
3. 活動報告会は分かり易かったですか？	
社内教育に活用するため、時事ネタを背景としたSCMHの説明を工夫して頂きたい。	活動報告会やSCMH説明会で説明するSCMHは、前年度や当年度に和訳作業を行ったものを選んできました。今後は、タイムリーな時事ネタがあれば、それに該当するSCMHを選んで説明することも考慮します。
特殊工程WGで提案の具体内容、件数を示してもらえたのは良かった。9件の反映事項を簡単で良いので、リスト化して示してもらえないだろうか。	AMS熱処理規格への意見提言結果(反映事項)について、今後、JAQGメンバー専用ウェブ等への掲示を検討致します。
JAQG独自活動内容について今後、情報共有・展開していただける事を期待します。	コメントありがとうございます。JAQG独自活動は、材料データ改ざん防止等を中心に2019年度に詳細検討を進めて参ります。一定の成果物を作成した時点で、会員の皆様にご紹介いたします。また、上記とは別で、規格検討WGにて模倣品防止に関する規格を検討しております。こちらも完成次第ご紹介いたします。
SJAC関連規格の発行状況は全体像として分かりやすかったが、どういう場合に適用となるのか？ 適用となる場合は、顧客から注文仕様書で要求がある場合なのか、JISQ9100:2016には引用されていないので、その場合はガイドライン的な位置付けなのか、その辺りの位置付けの説明があると良かった。	SJAC規格関連が適用となる場合とは、①顧客要求、②適用される法令・規制要求がある場合、あるいは③組織内で自ら適用とする場合、です。
4. 報告会全般について満足されましたか？	
質問しづらい雰囲気であった。又、この質疑方法で、質問者が望む的確な回答が得られているか疑問に感じた。	次年度の質疑応答については改善検討致します。(現時点では、質問用紙事前配布/収集等による方法を検討しております。)
報告内容が全体的に抽象的だった。JAQGがIAQGとどう役割を分担して、メンバーは何をしていくのは？など、分かる資料の説明が欲しいと思えます。	次年度以降は、IAQG活動におけるJAQGの役割の観点で、説明が出来る様資料作成を工夫致します。ご期待に添えるよう検討いたします。
審査関係の規格の変更にもなう今後の成果報告をお願いします。	現在認証関連の規格である9104-3及び-1の改訂を進めています。IAQGで規格が発行されましたら変更概要を発表またはJAQG ウェブに掲示する方向で検討いたします。
5. JAQG活動の方向性/活動内容に満足されましたか？	
航空当局との協調の一貫で、例えばサーキュラの改訂トピック等があると嬉しい。	航空局のサーキュラ改訂はJAQGの活動対象範囲ではありません。一方で、ステークホルダ様からの情報提供、特別講演等の形で御紹介頂けないか検討します。
空飛ぶ自動車/無人機関連の法令とか規格化の動向など、JAQG活動にも新技術動向に対応した取り組みを加えたらどうか。	コメントありがとうございます。新技術はIAQGでも協議される場合があり、IAQGの動向を見つつ、要すれば国内でも検討に含めて参ります。

コメント	回答
6. 質疑応答の時間は十分でしたか？また質問内容に満足されましたか？	
質問者が納得しない回答があった。より親切な対応が望まれます。	今後は真摯な回答に務めます。 名古屋会場でのご質問内容は、IAQG/JAQGでも調整中の項目が含まれていたため、一部不明確な回答となってしまいました。
NAS410に規定する NANDTBとして、国内でも組織が立ち上がっている様子ですが、JAQGとして、支援あるいは連携などは行われているのでしょうか？あればご紹介いただければと思います。	NANDTBに関しては、特に具体的な連携、支援等は実施しておりません。
7. JAQGに期待する項目を回答下さい。	
IoT、AI等の導入に際し、規格化が必要かどうかの検討を行って欲しい。	SJAC9115に関連して、設備や試験装置に用いられるNon-Deliverable Softwareに対し規格等にする必要性などが話題の遡上に上がっています。これは、IoTやAIにも繋がる話題かと考えます。
AS13000シリーズ規格への対応を検討して欲しい。	AS13000シリーズ規格は、AESQ(IAQGとは別組織)が作成した規格であり、現状JAQGでは対応出来ません。 業界全体として、IAQGの戦略WG(SWG)が規格をハーモナイズ(独自規格を少なく)させるべく調整を進めております。JAQGとしては、IAQG SWGに参画を継続し、調整状況を確認の上、進捗があればメンバーの皆様と情報共有させていただきます。
Nadcap審査への支援を行って欲しい。	JAQGでは、AC(Audit Criteria)チェックリストの日英対訳版の公開、PRIタスク・グループ及びSAE等への意見提言活動、Nadcapシンポジウム(主催：PRI)への協賛・支援といった活動を通じ、JAQGメンバー様への支援を実施しております。
NMMM(Non Metallic Materials Manufacturing),NMMT(Non Metallic Materials Testing)のAC チェックリストの日英対訳版発行をお願い致します。	今後、対訳版の作成を検討させていただきます。対訳版の作成は、JAQGメンバーのニーズや認証取得状況、技術動向、対訳版作成のためのリソースやPRIの動向等を考慮して優先度を設定し、順次、実施して参ります。
従来から活動されている内容ではありますが、特に以下の2点に、より力を入れて活動してもらいたいと思います。 ・IAQG/APAQGへの参画(規格制定、日本の業界の意見具申、APAQGの牽引等) ・ステークホルダと関係強化(特に経産省：協力して活動を進め業界発展を目指してもらいたい)	コメントありがとうございます。 コメント頂いた内容は、2019-2023年度のロードマップ、及び2019年度事業計画に盛り込み、活動を継続していく予定です。
9110、9120認証制度の確立。又JCAB認定に対する9110認証制度の活用。	9110/9120 認証制度については、2019年度の活動の中で詳細検討を進めます。次年度の活動報告会にて進捗を説明致します。 なお、JCAB殿へは、IAQGを通じて他国の動向を把握しつつ、定期的な情報提供に努めます、
9. SJAC規格について、要求事項の明確化・強化等の改善が必要と思うものがありましたら、規格番号と理由等を記入願います。(規格番号については、規格検討WG報告ページを参照願います。)	
SCMH和訳版：JIS Q 9100:2009をベースとした記述(特に箇条)が多いが、JIS Q 9100:2016をベースとしたものに改訂した方が良いのではないのか。	SCMH文書に関し、IAQG(英語版)、JAQG(和訳版)の双方とも、9100:2016反映版とすべく順次対応中です。 一方で、SCMHの新規発行/改正は、IAQGメンバーによるボランティアベースの活動で実施されており、また、重要なアイテムの新規発行/改正を優先的に進めております。 SCMHはガイダンス文書のため、「9100:2008反映版であっても記載内容を参考とすることが出来る」との判断から、同版も継続掲載しております。 コメント頂いた内容は、IAQGのSCMH管理チームに提言するとともに、早期改訂を働きかけてまいりますので、上記ご理解の程宜しくお願い致します。
SJAC規格は、顧客要求事項に入れなければ単なる参考規格である。Boeing等は呼び出しているが、日本の大手企業ではほとんどされていない。大手企業に対するSJAC規格活用のキャンペーンが必要ではないのか。	コメントありがとうございます。 海外OEMのIAQG規格要求状況も考慮しつつ、JAQG幹事会社を中心にSJAC規格活用を図ってまいります。

コメント	回答
9102規格「初回製品検査要求」における FAI(First Article Inspection)の記録方法を簡素にしたい(FORMを作成する時間を改善したい)。(例えば、2D図面の場合、ACT値を直接図面に記録する(FORM3の削除)等の改善)	次回9102改訂時の検討案件として対応したいと思います。
10. JIS Q 9100認証取得・維持に際し、どのような点に苦勞されましたか。規格番号と理由等を記入願います。(規格番号については、規格検討WG報告ページを参照願います。)	
QMS維持に必要な人員・体制・費用について、各社状況調査の上、適正な人員数/体制について議論の機会があればと思っておりますが、対応頂けないでしょうか。	QMS維持に関わる資源は、企業規模や業態で異なるため、議論(ベンチマーク等)は厳しいと考えられますが、機会があれば調査を検討いたします。
11. その他 要望・コメントがあれば、以下にご記入下さい。	
AA(Aerospace Auditor; 航空宇宙審査員)およびAEA(Aerospace Experience Auditor; 航空宇宙経験審査員)になるための要件の一つにJRCAに登録しているQMS審査員である必要がありますが、他の審査員認定機関であるIRCA審査員又は主任審査員でも認めることを検討して欲しい。(本来は認証機関などで認定されたQMS審査員でも良いと思えます。)尚AAおよびAEA審査員資格認定機関は当面JRCAが良いとは思っています。(JRCA AA100)航空宇宙産業向け審査員の資格要項 5.1.4 資格登録	本件はJRCA殿が定められた規定ですので、JRCA殿にお問い合わせ頂きたいをお願いします。
合格表示媒体(AAM)の管理について詳細な情報が欲しい。特に当社の考え方、実績に対応する不足事項をいち早く知りたいため。	SCMH 3.12章 合格表示媒体(AAM)については、WGでの和訳作業は全て終了、現在最終のまとめ作業を行っている段階にあります。皆様の関心が高いことは活動説明会にて強く感じており、2019年度第一四半期迄には公開出来る見込みで活動を進めておりますので、もう暫くお待ち願います。
JIS Q9100認証数が最近横ばいとなっていますが、その原因/対策の検討をよろしく願います。	コメントありがとうございます。確認の上、対応を検討致します。
JIS Q 9100でも要求されるようになった模倣品対策が普及せず、対策が必要かと思えます。サプライヤの方々もほとんど対策を導入していないので、JAQGの立場からも広報してもらいたいです(SCMH説明会の繰り返し実施、対策実施事例の紹介、経産省の協力しての活動などなど)。また、9100認証機関(審査員の方)にも模倣品対策の内容・重要性を理解しておらず(対策=枯渇品管理程度の考え方ではほとんど審査していない)、十分といえません。認証機関(審査員)の教育の強化もお願いしたいです。	規格検討WGでは、模倣品防止に関わるJAQG独自規格作成を進めております。又、審査員の教育は認証機関が責任を持ちますので、このような指摘があったことを認証機関に連絡致します。
9104-1への移行が完了しているため、9010及び9011はすぐに廃止できると思えます。(規格WGへのコメント)	廃止の手続きをとるように進めます。
DO-178, DO-254への対応, FAA要求として考える必要はないか? DoO-178については, SJAC9115との関係についてはどうか。	DO-178, DO-254等は、顧客要求に適用指示があれば組織は対応することになるかと思えます。又、DO-178とSJAC9115はそれぞれ独立しており、こちらも顧客要求に適用指示があれば組織は対応することになるかと思えます。
航空機産業特有の品質要求や対応方法に関する教育プログラムの開発か講習会等を支援, 実施頂けると有難いです。(特に新規, 中小企業向)	JAQGでは、研修/講習会を行っておりません。IAQG/JAQG発行の各種文書(規格展開支援文書, SCMH)を御活用下さい。なお、中小企業様の航空機産業参入については、全国航空機クラスターネットワーク(https://namac.jp)や中小企業庁様(中小企業の航空機産業への参入のためのガイド)等で、有益な情報が発信されていますので、ご参照ください[H30年度 JAQG活動報告会 特別講演参照]。

コメント	回答
<p>AQMS(Aerospace Quality Management Systems)監査、Nadcap監査における不適合事例を紹介していただけるとありがたいです。ご検討をお願いします。</p>	<p>特殊工程(Nadcap)審査における不適合は、PRIから頻出不適合(NCR Top10)が紹介されていますので御参照ください。 AQMS審査における不適合は、現時点では公表されておりません。</p>